日本銀行熊本支店
熊本市中央区山崎町15番地
TEL 096-359-9501　FAX 096-311-1022
URL http://www3.boj.or.jp/kumamoto/index.html

熊本県の金融経済概観

（２０１９年２月６日）

１．概況

熊本県内の景気は、復興需要が本格化する下で、基調としては、緩やかに拡大しているが、一部では弱めの動きが続いている。先行きについても、基調としては、緩やかな拡大が続くと予想される。

最終需要面をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善などを背景に、基調としては、堅調に推移しているが、一部では弱めの動きが続いている。この間、観光は、インバウンド需要を中心に持ち直しているが、一部の地域では厳しさが強まっている。他方、住宅投資は、高水準を維持しつつ、横ばい圏内で推移している。また、公共投資も、幅広い主体で災害復旧工事が続く中、高水準で推移している。設備投資については、大地震後の復旧需要は減少に転じているが、高水準を維持している。

生産面をみると、一部では減産の動きが続いているが、全体としては、高水準を維持しつつ、横ばい圏内で推移している。

雇用・所得面をみると、労働需給は、引き続き逼迫している状況にある。そうした下で、地域や職種によるミスマッチは残りつつも、雇用や所得面にも、引き続き好影響が及んでいる。

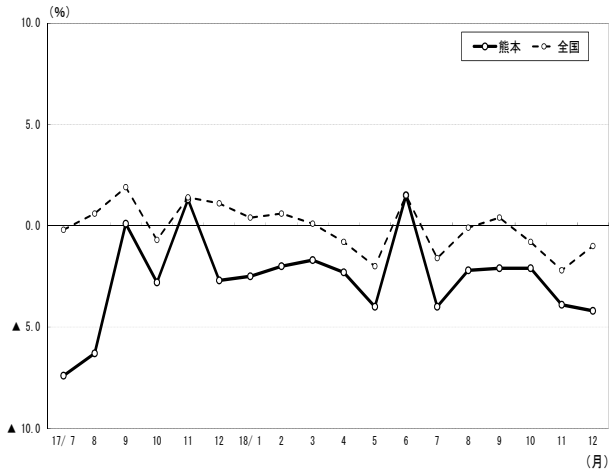
この間、１２月の消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合、前年比）は＋０．４％と、２４か月連続で上昇した。

２．個人消費

個人消費は、雇用・所得環境の改善などを背景に、基調としては、堅調に推移しているが、一部では弱めの動きが続いている。

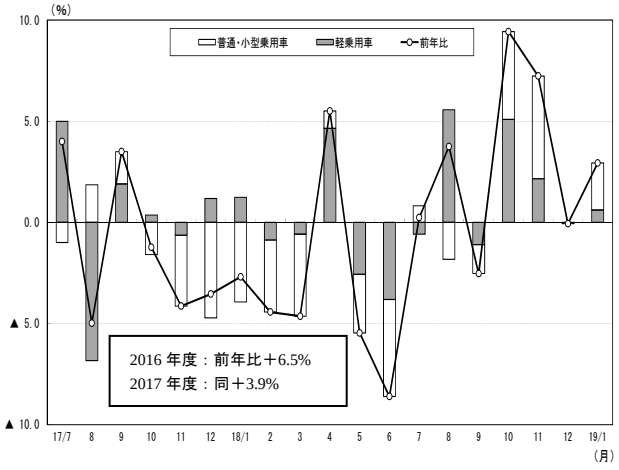
１２月以降の百貨店・スーパー売上動向をみると、天候要因もあって前年を下回る状況が続いている。１２月以降の乗用車の新車登録台数（含む軽）は、新型モデルの投入や高機能化を背景とした買い替えにより増加している。家電販売の動向をみると、白物家電等の買い替え需要を背景に、基調としては増加している。他方、観光は、インバウンド需要を中心に持ち直しているが、一部の地域では厳しさが強まっている。この間、当地発の旅行は、国内・海外ともに持ち直している。

＜百貨店・スーパー売上高前年比＞



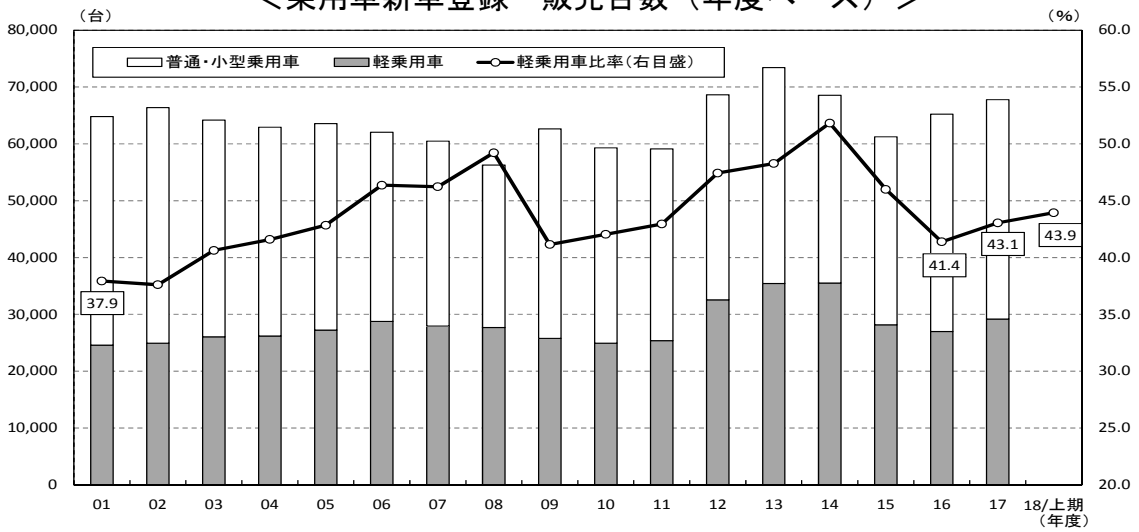
（注）既存店ベース
（出所：経済産業省）

＜乗用車新車登録・販売台数前年比寄与度＞



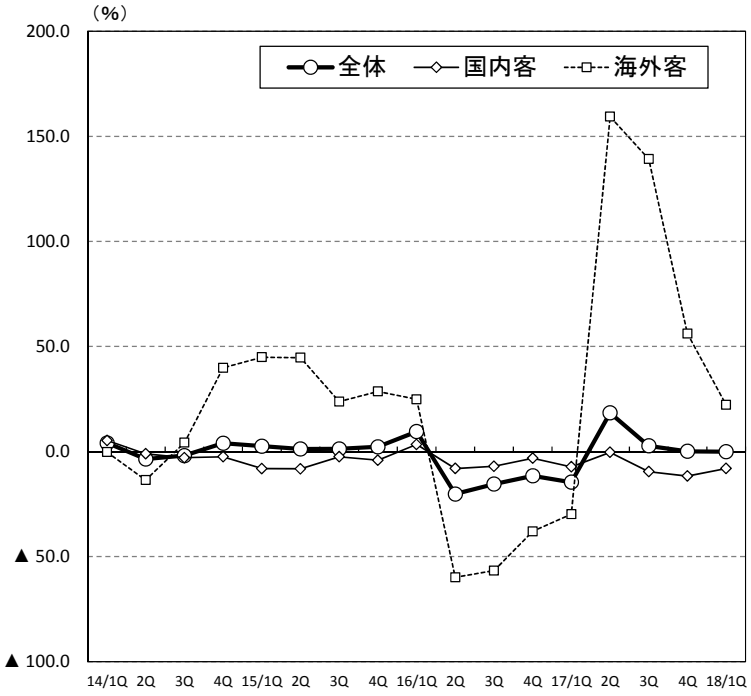
（出所：九州運輸局熊本支局、熊本県軽自動車協会）

＜乗用車新車登録・販売台数（年度ベース）＞

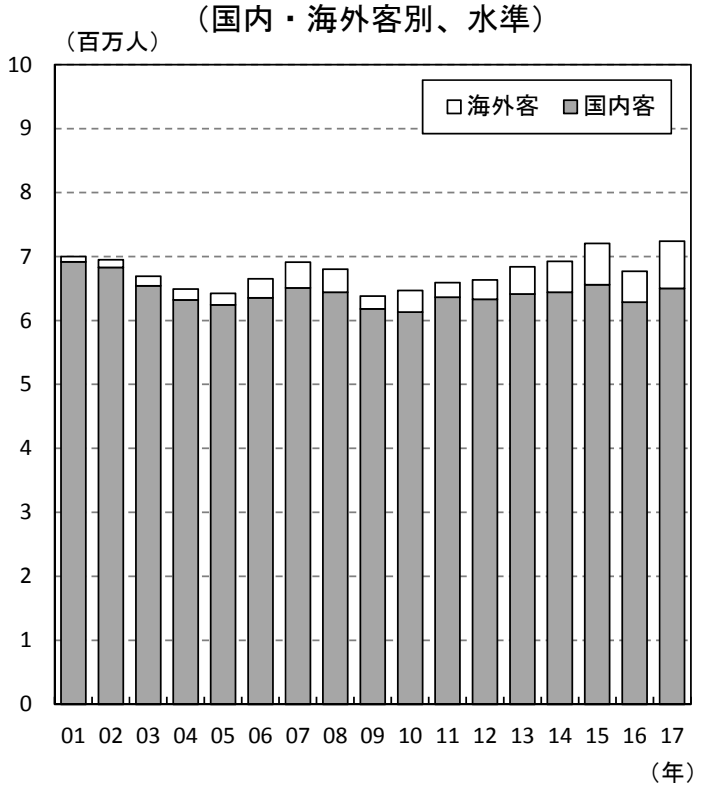


（出所：九州運輸局熊本支局、熊本県軽自動車協会）

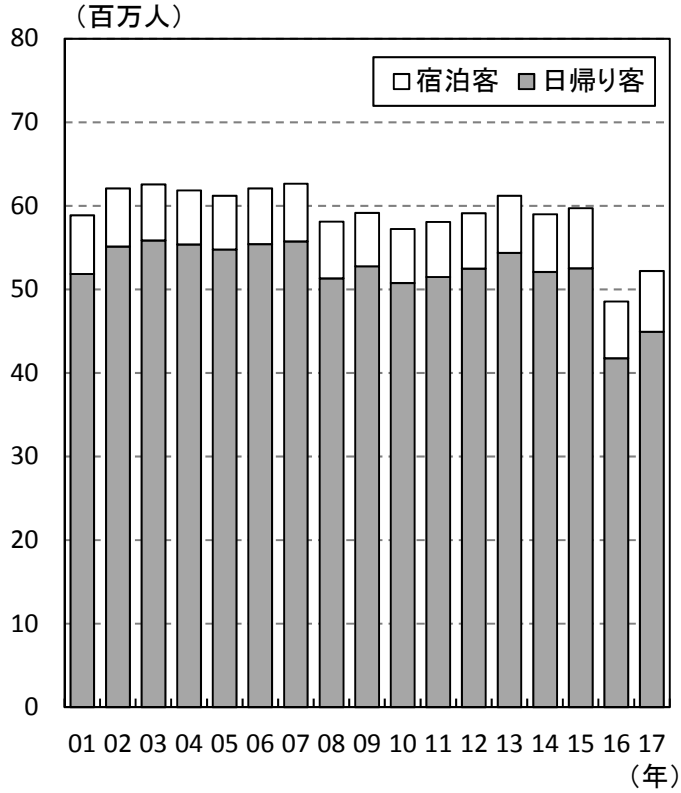
＜県内宿泊客数前年比（四半期）＞



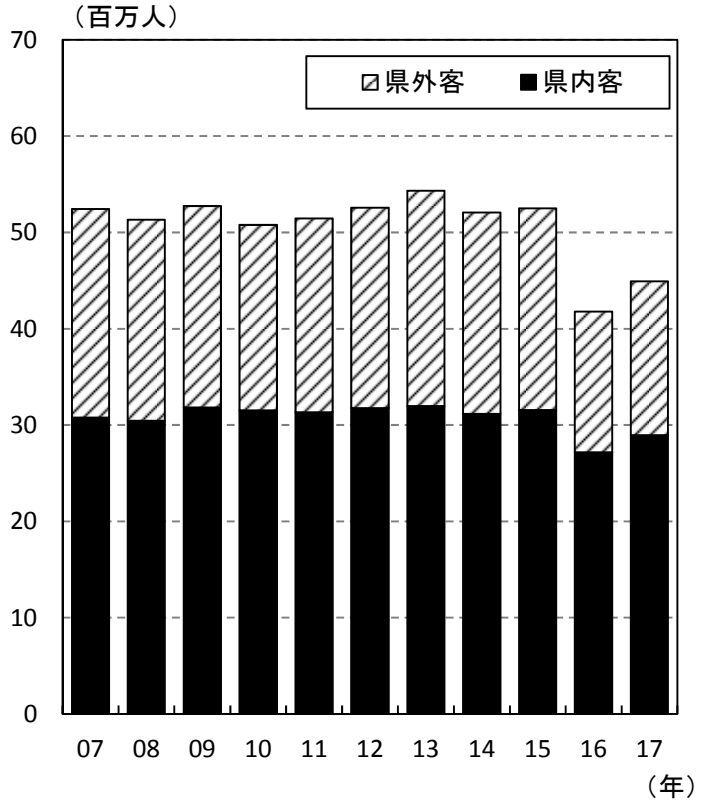
＜県内宿泊客数（暦年）＞
（国内・海外客別、水準）



＜県内観光客数（暦年）＞
（宿泊・日帰り客別、水準）



＜県内日帰り客数（暦年）＞
（県内・県外客別、水準）



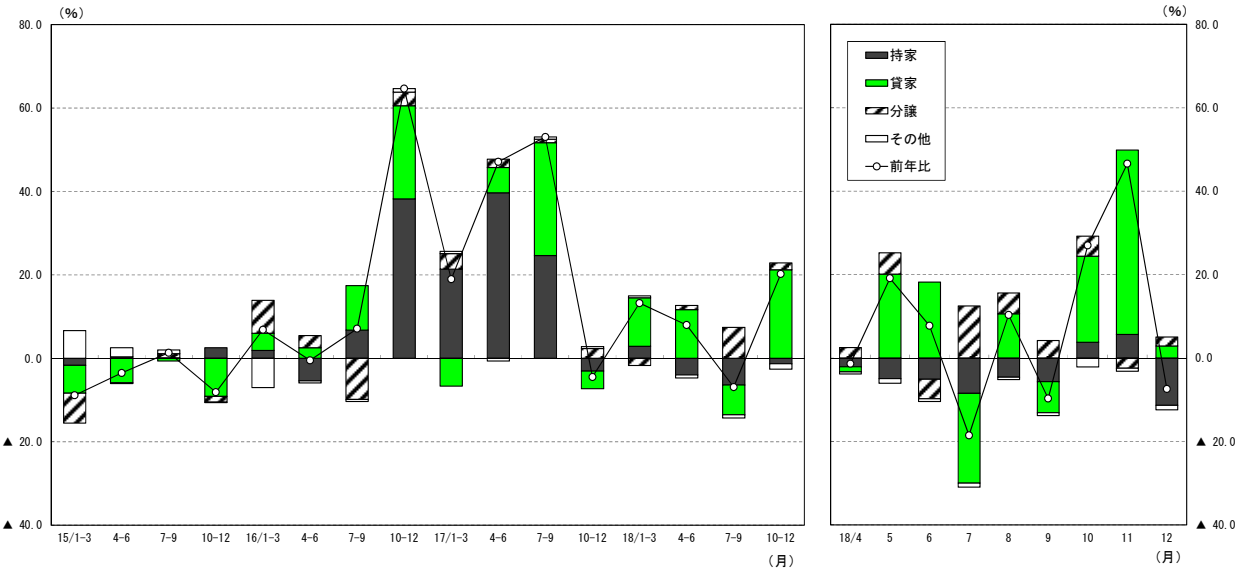
（注1）県内宿泊客数について、四半期ベースと暦年ベースではサンプルが異なるため、計数は一致しない。
（注2）2007年までの計数は合併前の市町村単位、2008年以降は合併後の市町村単位で集計しており、日帰り客については多少の段差が生じている。
（注3）宿泊客数・日帰り客数ともに外国人観光客を含む。
（出所：熊本県）

３．住宅投資

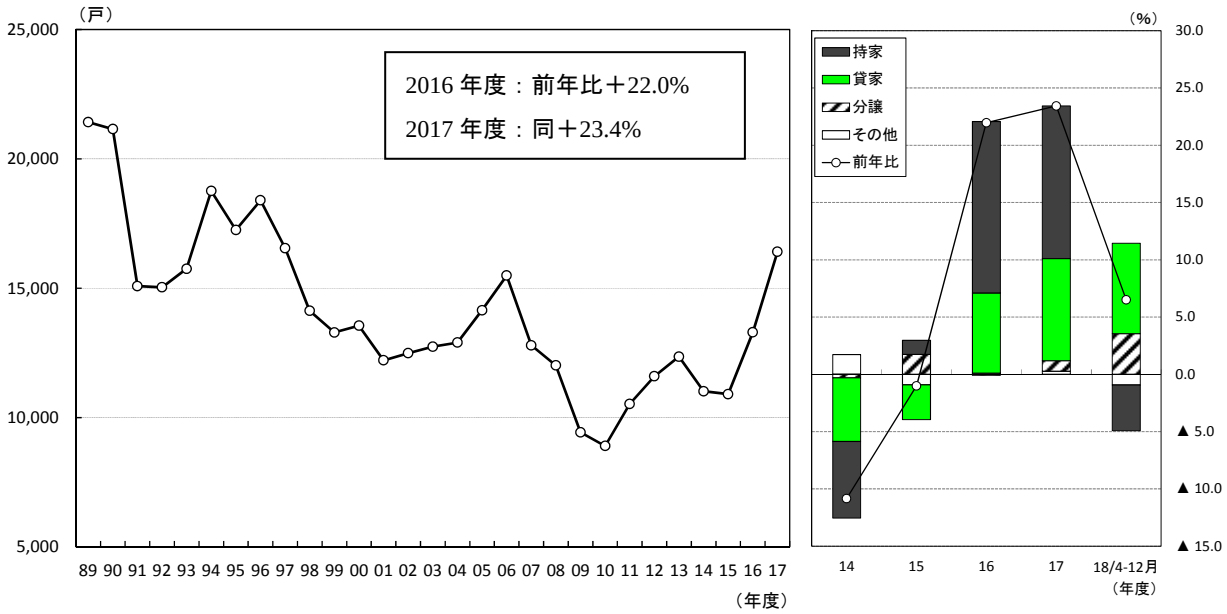
住宅投資は、高水準を維持しつつ、横ばい圏内で推移している。こうした中、被災した持家の建て替えは減少に転じているが、貸家の着工は振れを伴いつつも増加している。

１２月の新設住宅着工戸数は、持家を中心に前年を下回った（１２月：前年比▲７．４%、４－１２月：同＋６．５%）。

＜新設住宅着工戸数・利用関係別前年比寄与度＞



＜新設住宅着工戸数（年度ベース）＞



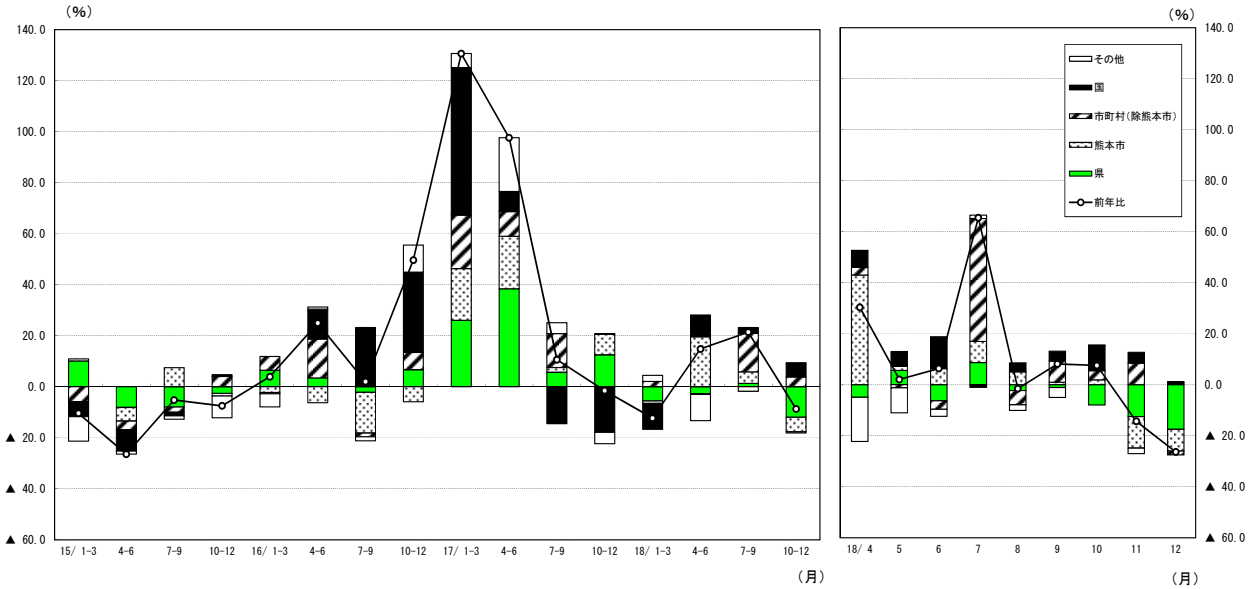
（出所：国土交通省）

４．公共投資

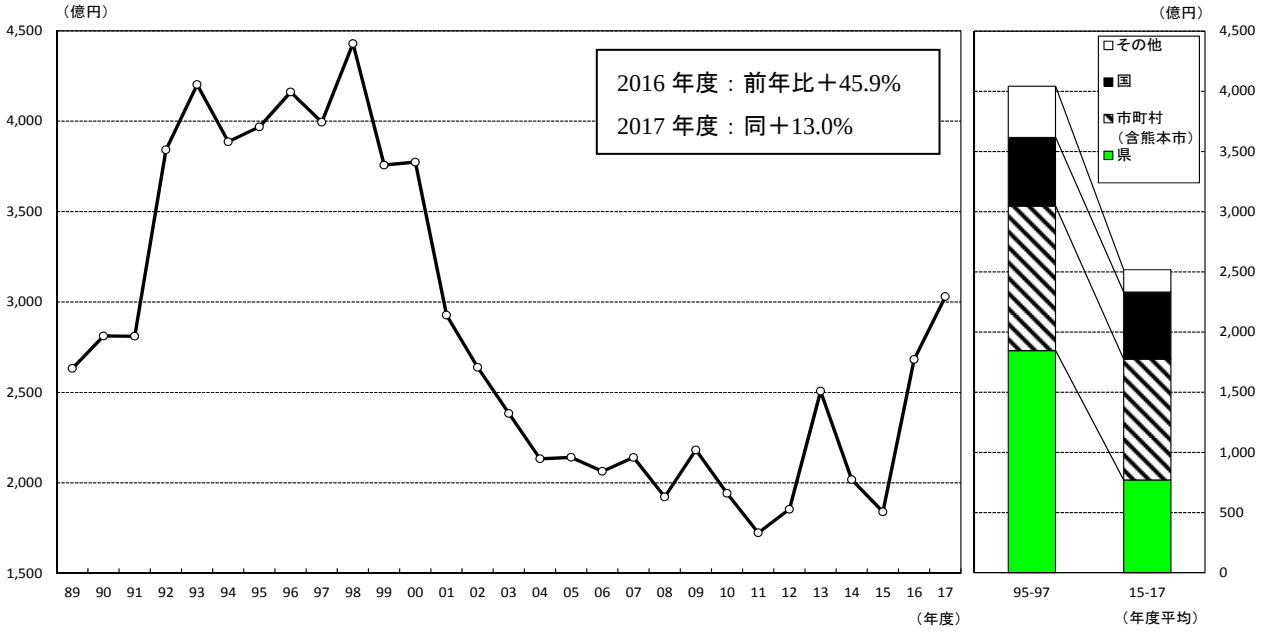
公共投資をみると、幅広い主体で災害復旧工事が続く中、高水準で推移している。

１２月の公共工事請負金額の前年比は、県を中心に減少した（１２月：前年比▲２６．３%、４－１２月：同＋９．２%）。

＜公共工事請負金額・発注者別前年比寄与度＞



＜公共工事請負金額（年度ベース）＞



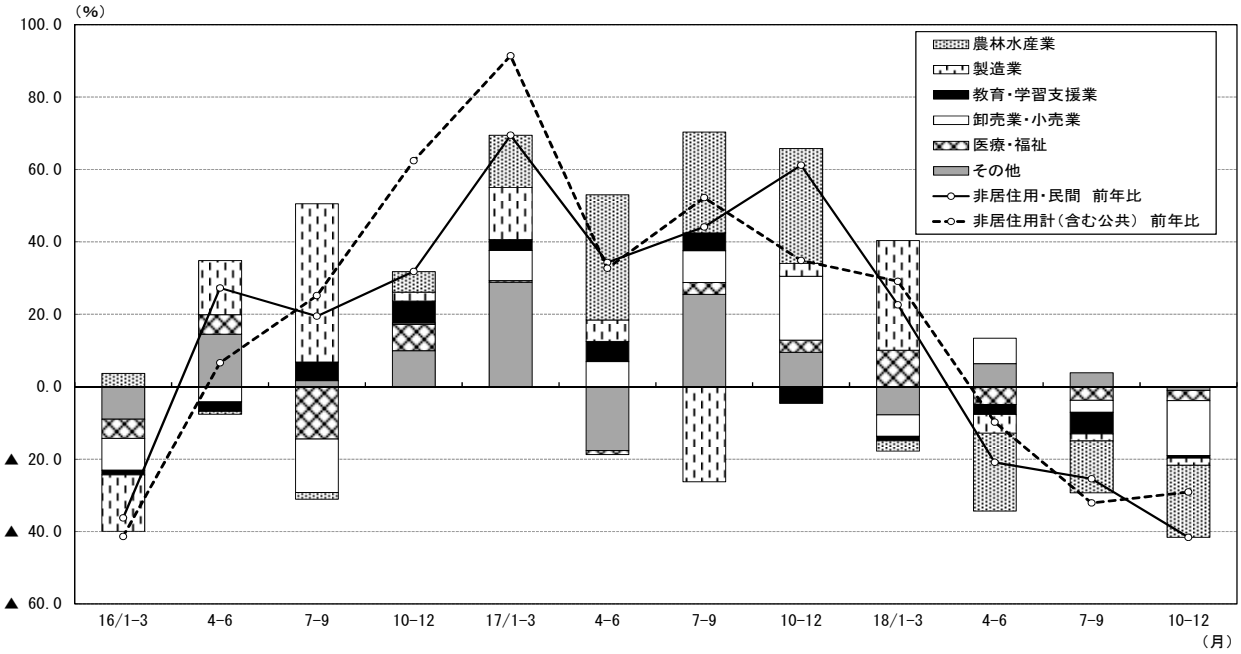
（出所：西日本建設業保証）

５．設備投資（建設投資）

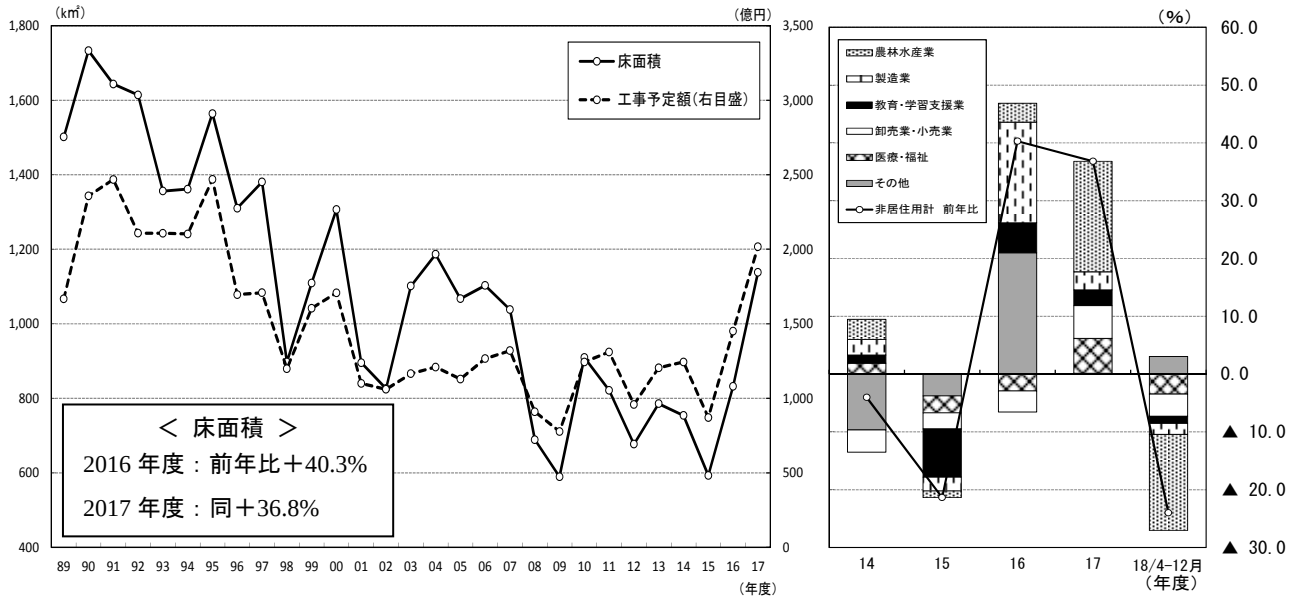
企業の建設投資をみると、大地震後の復旧需要は減少に転じているが、高水準を維持している。

１２月の建築着工床面積（非居住用・民間）は、農林水産業や製造業を中心に、前年を下回った（１２月：前年比▲５１．６%、４－１２月：同▲２４．０%）。

＜建築着工床面積・用途別前年比寄与度（非居住用・民間）＞



＜建築着工床面積（非居住用（含む公共）、年度ベース）＞



（注）2017年度の民間部門と公的部門のウエイトは87：13。

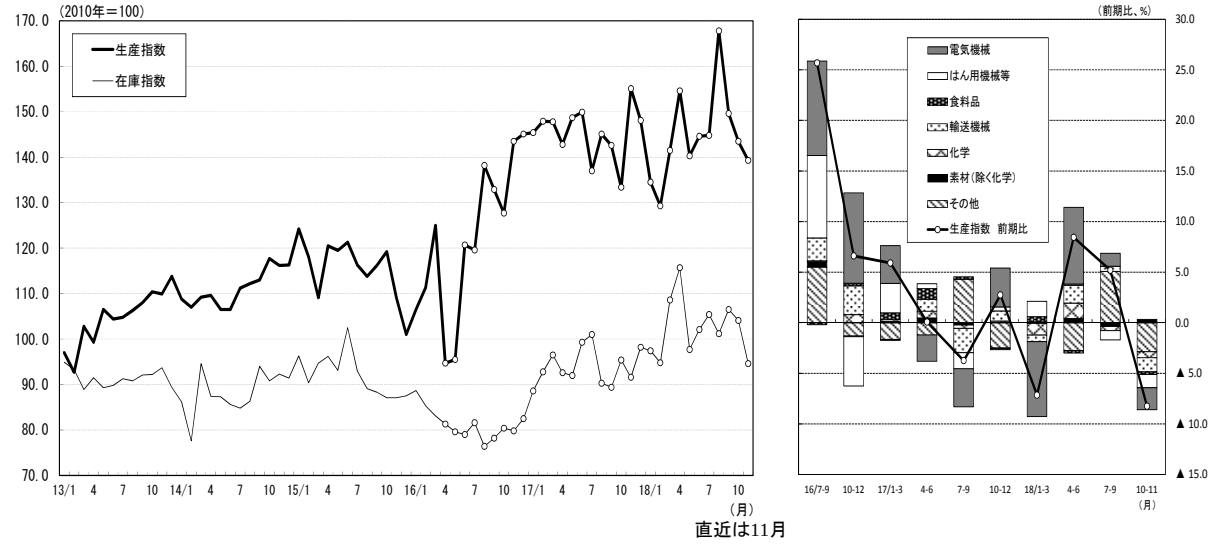
（出所：国土交通省）

６．生産

生産面をみると、一部では減産の動きが続いているが、全体としては、高水準を維持しつつ、横ばい圏内で推移している。先行きも、堅調なグローバル需要の下で、振れを伴いつつも、全体としては高水準の生産が続く見通し。

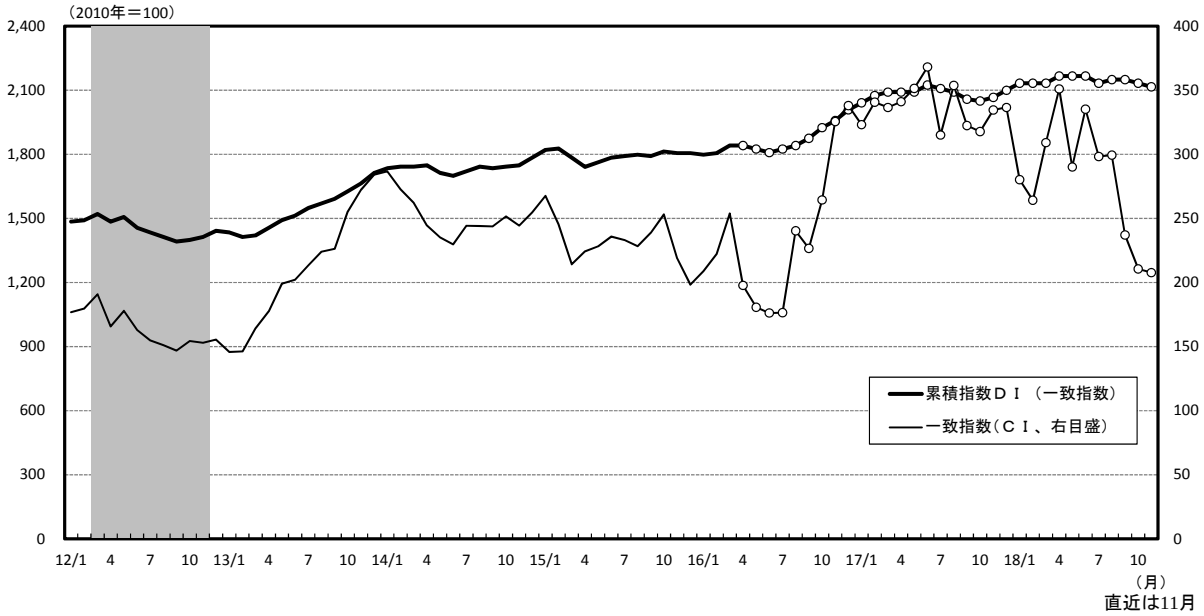
１１月の鉱工業生産は、「電気機械」を中心に、３か月連続で前月を下回った（１１月：前月比▲２．９％、前年比▲１０．２％）。

＜鉱工業生産指数（季節調整済）＞



直近は11月

＜参考：景気動向指数＞



直近は11月

（注）ＣＩは参考値。シャドー部分は景気後退期を示す。

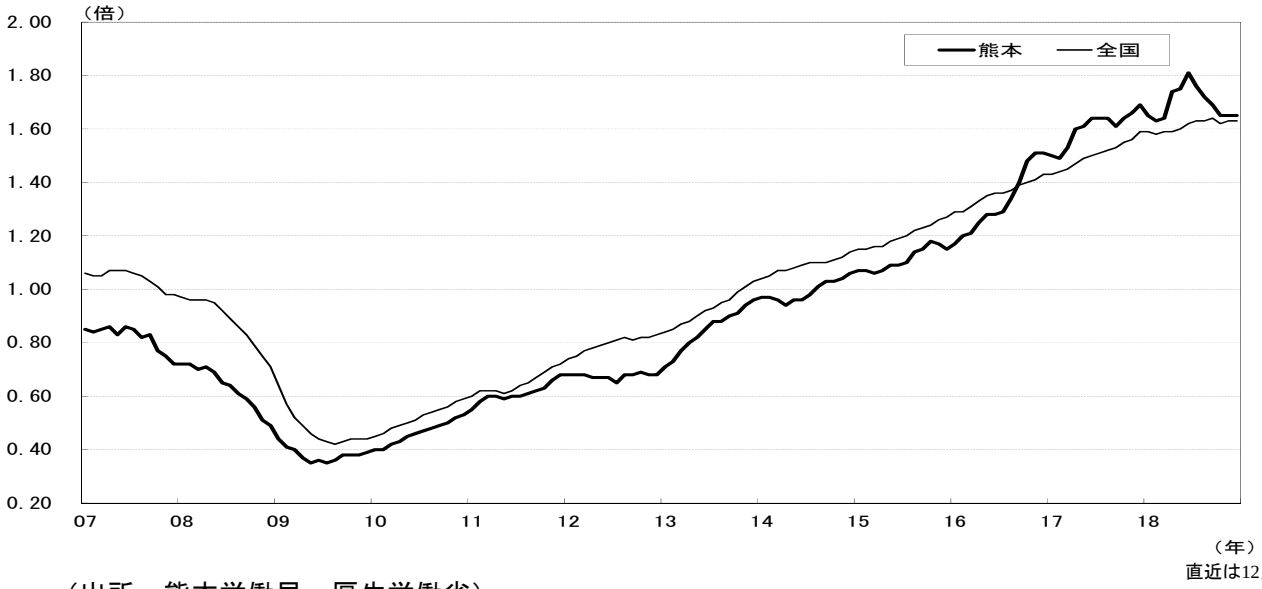
（出所：熊本県）

７．雇用・所得

県内の労働需給は、引き続き逼迫している状況にある。そうした下で、地域や職種によるミスマッチは残りつつも、雇用や所得面にも、引き続き好影響が及んでいる。

１２月の熊本県の有効求人倍率は、１．６５倍（季調値）と３か月連続で横ばいとなっている。なお、全国（１．６３倍＜同＞）の水準は、１６／９月以降、連続して上回っている。

＜有効求人倍率（季節調整済）＞

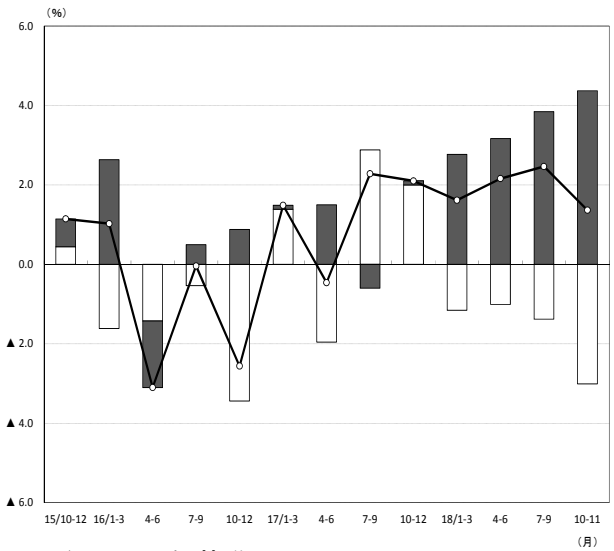


直近は12月

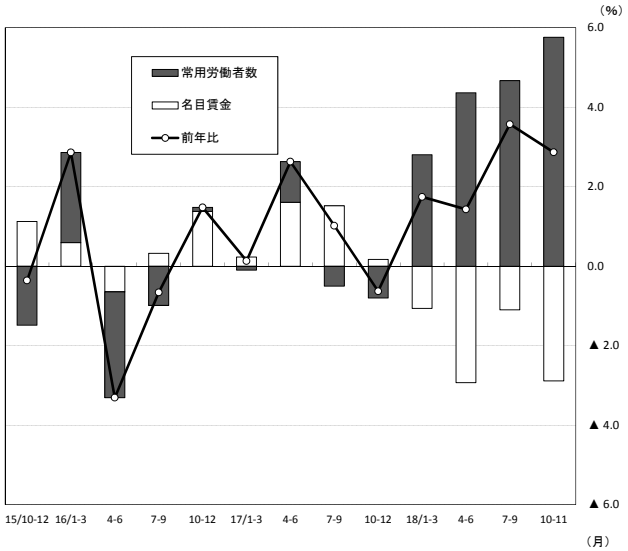
（出所：熊本労働局、厚生労働省）

＜雇用者所得・前年比寄与度＞

（事業所規模５人以上）



（事業所規模３０人以上）



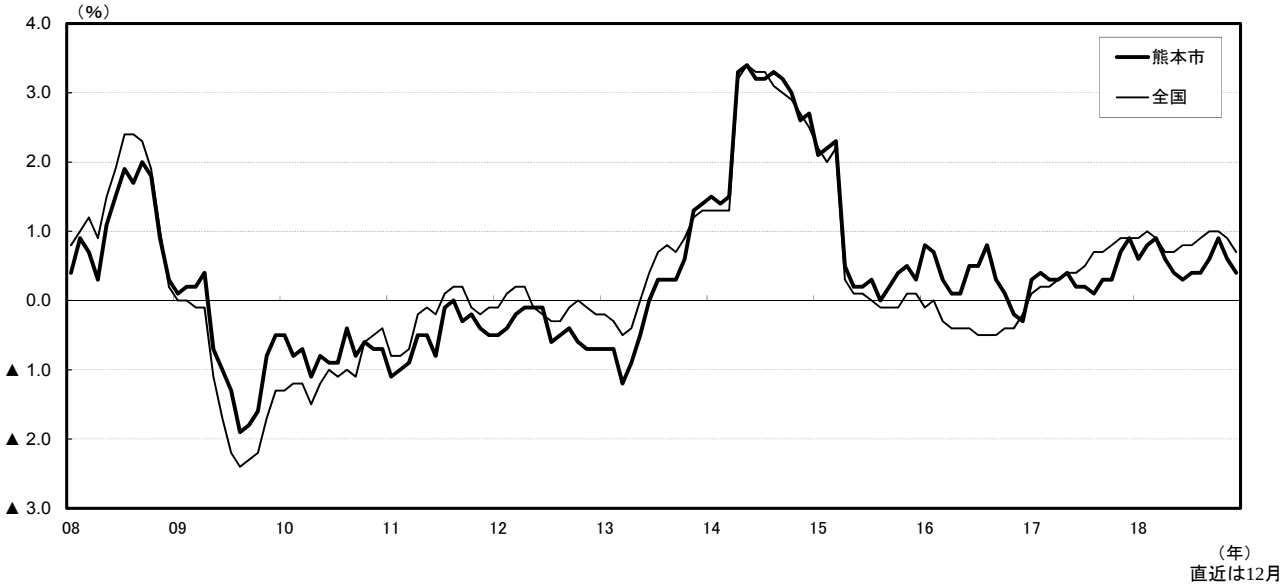
（注）2015年基準。

（出所：熊本県）

８．消費者物価

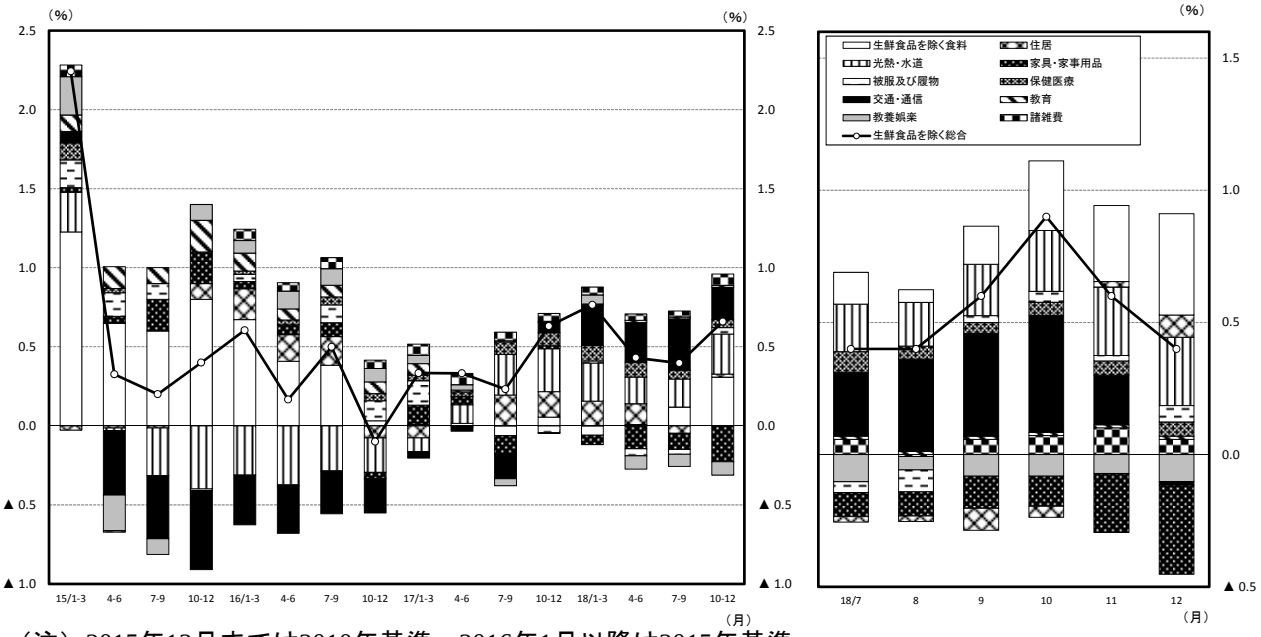
１２月の消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合、前年比）は＋０．４％と、２４か月連続で上昇した。内訳（前年比）をみると、「光熱・水道」、「生鮮食品を除く食料」などが上昇した。１１月から１２月にかけての前年比プラス幅の縮小には、「交通・通信」のマイナス転化が寄与した。

＜消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合）・前年比＞



（注）2010年12月までは2005年基準、2011年1月～2015年12月は2010年基準、2016年1月以降は2015年基準。

＜消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合）・前年比寄与度＞



（注）2015年12月までは2010年基準、2016年1月以降は2015年基準。

（出所：熊本県、総務省）

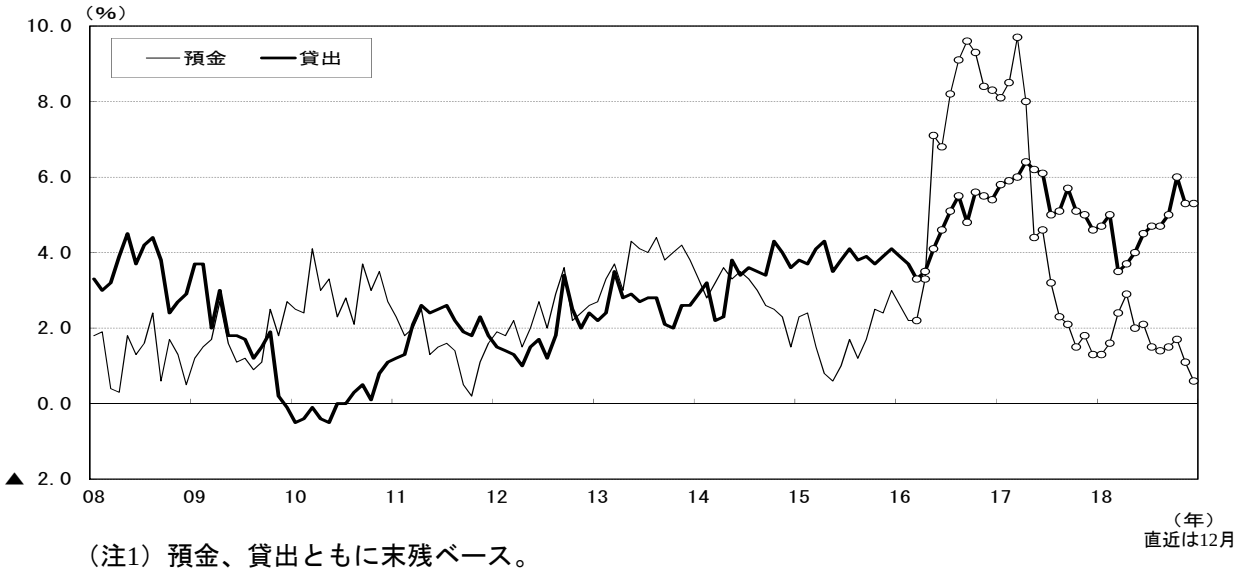
９．預金・貸出、貸出約定平均金利

１２月の預金（実質預金＋譲渡性預金）動向をみると、個人預金を中心に伸びているものの、前年比増加率は全国を下回っている（前年比：熊本県＋０．６%、全国＋３．１%）。

他方、貸出は、全国の動きと比べても引き続き大きく伸びている（同：熊本県＋５．３%、全国＋２．５%）。内訳をみると、個人向けは、住宅ローンを中心に増加している。法人向けは、設備資金が徐々に増えてきている。

この間、貸出約定平均金利（総合、ストックベース）は、１．１２８%と前月を下回った。

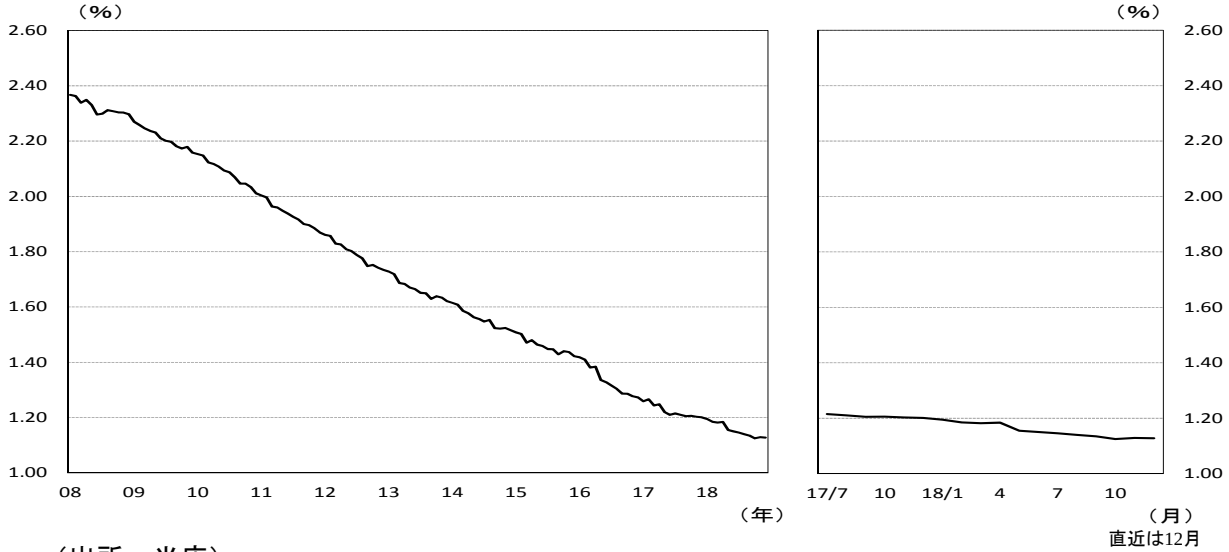
＜預金（実質預金＋譲渡性預金）、貸出・前年比＞



（注1）預金、貸出ともに末残ベース。

（注2）実質預金＝表面預金－切手手形。

＜貸出約定平均金利（総合、ストックベース）＞

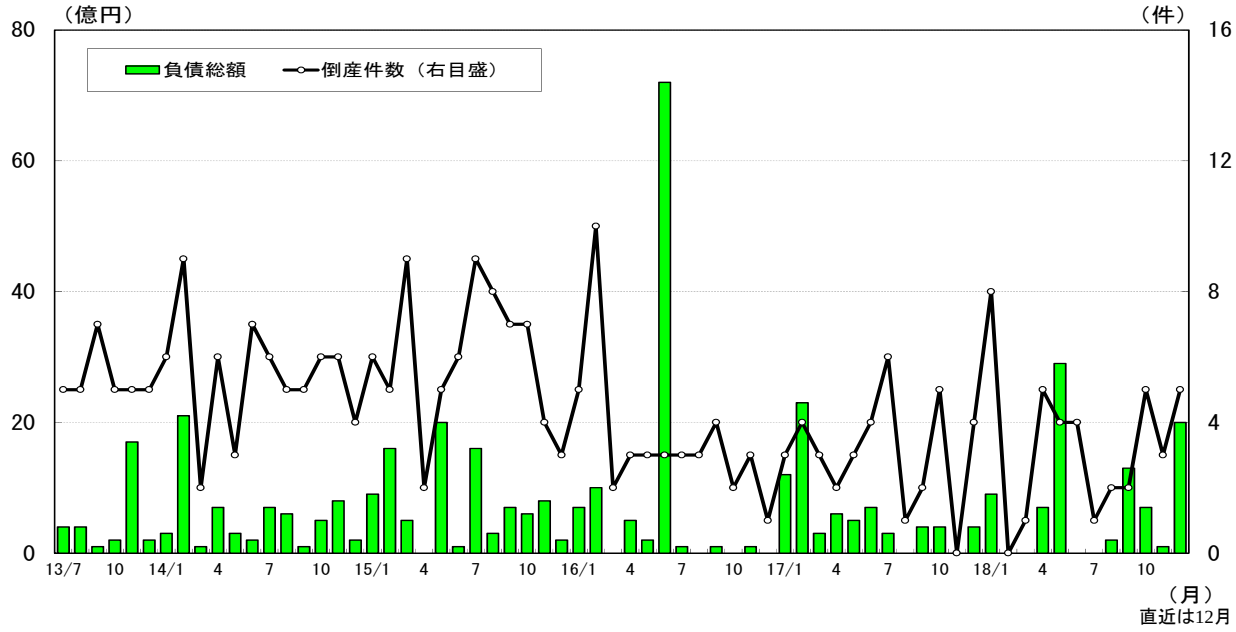


（出所：当店）

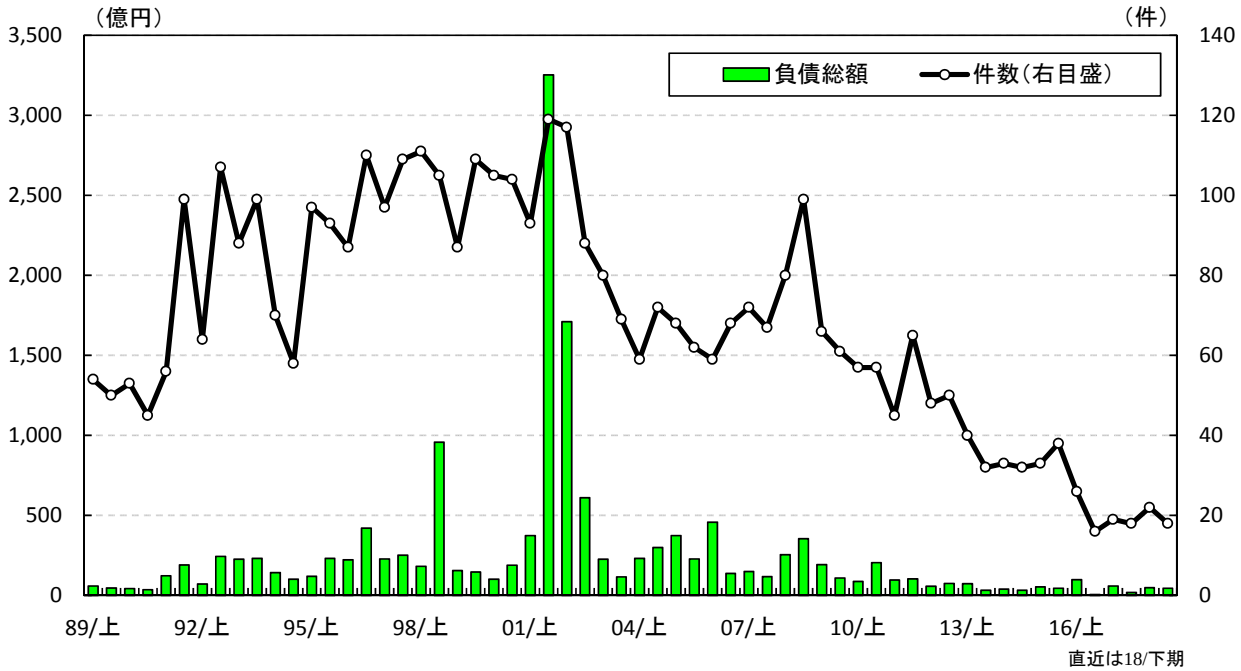
１０．企業倒産

１２月の企業倒産（負債金額１０百万円以上）は、件数、負債総額ともに落ち着いた動きとなっている。

＜企業倒産（負債金額１０百万円以上）＞



＜企業倒産（負債金額１０百万円以上、暦年半期ベース）＞



（出所：東京商工リサーチ）

以　上